

2-P-3

学生課程教育の質的変換と学修時間の量的拡大へのクラウドの効果の実践研究

栗岡 誠司

今、学びの質的変換と学修時間の確保が求められている。しかしながら、学生の実態として物理的に確保できる時間の側面から困難さが存在する。解決する一つの方法論として「クラウド型教育支援サービス」の可能性を検証した。クラウドは、朝日ネットの「manaba」を採用した。ここでは、小テスト、ドリル、レポート、アンケート、ポートフォリオなどが行える。これらの機能を用いて、「クラウドで提供した資料は予習復習に寄与し講義の質を高める」「レポート・課題について双方向の指導がリアルタイムにできる」「演習などが常時行うことが可能であり学修時間の増加につながる」「いつでもどこからでもクラウド上で議論が可能であり能動的な学修習慣が確立できる」との仮説を検証した。

現時点では、以下のような効果が期待できることが検証された。実験・実習用プリント提供は、予習効果が期待でき、実験実習がより能動的なものとなる。講義内容を補完する演習課題については、講義当日・翌日などに提出を求めることができ復習効果が高い学修が可能である。国試対策等の演習問題の充実により低学年次より、意識を持っての学修が期待できる。課題としては、演習課題などコンテンツの充実、質疑応答に対応する労力などが挙げられる。また、現在医療検査学科1年生と一部ゼミ生の運用であるが、全学年による運用によって、より多くの効果の検証が期待できる。

2-P-4

神戸常盤大学保健科学部医療検査学科国家試験対策統合データベースの構築

関 雅幸
高松 邦彦、後藤 正徳、坂本 秀生

本学保健科学部医療検査学科では、これまで国家試験対策に関連する資料やデータベースを構築してきた。その中には、教員が作成した、国家試験対策問題集(カッコ抜き)、国家試験改変問題、国家試験対策統計解析データベースなどが存在する。これらの作成者・編集者・管理者は異なり、かつ更新者も年度によって異なるため、効率的な運用を行うことが難しい状況である。そこで本研究では、国家試験対策統合データベースをファイルメーカー上に構築した。

まず、本学医療検査学科に存在する国家試験対策に関連する電子データを収集した。次に、構築したデータベースをもとにデータを整形後、そのデータを用いて国家試験対策問題集(カッコ抜き)のデータをなるべく人手を介さずに半自動生成するシステムを構築した。これには、冊子などを自動で組版するLaTeXという組版処理ソフトウェアを使用した。今後は、国家試験改変問題や国家試験対策統計解析データベースについても半自動生成するシステムを構築する予定である。